

115 良い牧者(2)

ヨハネによる福音書 10：11～21

▶イエスは良い羊飼いです(続き、ヨハネによる福音書 10：11～21)

11 わたしは良い羊飼いです (I am the good shepherd)。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

【一言】シェパード（ドイツ原産の犬種 German Shepherd Dog）は、「ドイツの牧羊犬」という意味があり、また忠誠心と服従心に富み、訓練を好む性格であることから、「牧羊犬」と勘違いされることが多いが、実際には牧羊犬として使役されたことはない。実際には、災害救助犬・軍用犬・警察犬・麻薬探知犬など特殊訓練を必要とする作業犬として活用されている。

12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。

（雇い人は、ただ賃金のためだけに働いているのであって、自分の身の安全が第一で、羊がどうなっても全く関係ないからである。）——（その結果、）狼は羊を奪い、また追い散らす。——

13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。

→エレミヤ書 10：21～22（バビロン捕囚の預言）

群れを養う者は愚かになり／主を尋ね求めることをしない。それゆえ、彼らはよく見守ることをせず／群れはことごとく散らされる。声がする。見よ、知らせが来る。北の国から大いなる地響きが聞こえる。それはユダの町々を荒廃させ／山犬の住みかとする。

→エレミヤ書 12：10～11（バビロン捕囚の預言）

多くの牧者がわたしのぶどう畑を滅ぼし／わたしの所有地を踏みにじった。わたしの喜びとする所有地を／打ち捨てられた荒れ野とし／それを打ち捨てられて嘆く地とした。それは打ち捨てられてわたしの前にある。大地はすべて打ち捨てられ／心にかける者もない。

14 わたしは良い羊飼いです。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。

→羊＝神の民、羊飼いです（牧者）＝指導者（王、祭司）

→イエスは「良い羊飼いです」（ヨハネ 10：11、14）である。

→ヘブライ人への手紙 13：20～21

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてくださり、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるよう。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。



【参考】牧者(大牧者) 旧約聖書に 36 か所、28 聖句、新約聖書に 6 か所、6 聖句に登場する。

タイトル(書名)	章:節 聖句	[検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250 <牧者>5個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 牧者]
S マタイによる福音書	2:6	『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』	
S エフェソの信徒への手紙	4:11	そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです。	
S ペトロの手紙 I	2:25	あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。	
S ペトロの手紙 I	5:4	そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。	
S ヨハネの黙示録	7:17	玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、／命の水の泉へ導き、／神が彼らの目から涙をことごとく／ぬぐわれるからである。』	

15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じ（完璧で緊密な関係）である。わたしは羊のために命を捨てる。

16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊（→将来救われる異邦人の信者）もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れ（→教会）になる。

→エフェソの信徒への手紙 3：6

すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

17 わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してください。

18 だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき（→運命を支配する権威＝十字架の預言）、それを再び受けることもできる（→死に勝利する権威＝復活の預言）。これは、わたしが父から受けた掟である。」

19 この話をめぐって、ユダヤ人たちの間にまた対立が生じた（→意見が分かれた）。

→イエスが来られると、世に、社会に、家庭に、個人間に対立（分裂）が起こる。

タイトル(書名)		章:節 聖句 [検索対象総数: 2 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S	マタイによる福音書	10:34 「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っ	た。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。
S	ルカによる福音書	12:51 あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。	

【参考】対立、意見が分かれた

タイトル(書名)		章:節 聖句 [検索対象総数: 6 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S	ヨハネによる福音書	7:43 こうして、イエスのことで群衆の間に対立が生じた。	
S	ヨハネによる福音書	9:16 ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。	
S	ヨハネによる福音書	10:19 この話をめぐって、ユダヤ人たちの間にまた対立が生じた。	
S	使徒言行録	15:2 それで、パウロやバルナバとその人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。	
S	使徒言行録	15:39 そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、	
S	使徒言行録	28:25 彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとしたとき、パウロはひと言次のように言った。「聖霊は、預言者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの先祖に、	

20（一般の）多くのユダヤ人は言った。

「彼は悪霊に取りつかれて、気が変になっている。なぜ、あなたたちは彼の言うことに耳を貸すのか。」

21（イエスを信じる）ほかの者たちは言った。

「悪霊に取りつかれた者は、こういうことは言えない。悪霊に盲人の目が開けられようか。」

【参考】山羊と羊

▶山羊

ウシ科ヤギ亜科のヤギ属に属し、草以外にも木の葉っぱや木の芽を好んで食べる。

特徴として、角は少し湾曲して後ろに伸びており、尻尾は短く上向き、あごひげが生えている。

性格は好奇心が旺盛・活発・自己中心的・攻撃的などといわれており、安易に近づくと危険な動物でもある。山羊のチーズやミルクは芳醇な風味があり、牛乳よりも消化性に優れているといわれている。

▶羊

ウシ科ヤギ亜科のヒツジ属で、山羊と違い、草以外の食べ物を消化することができない。

一般的には、毛がもこもこと生えているのが特徴である。角はぐるぐると渦を巻いて伸びており、尻尾は長く下向き、あごひげはない。

性格は、温厚でおとなしい・臆病などといわれ、山羊と正反対である。

羊の毛は、保湿性と保温性に優れているため、多くに利用されている。

▶聖書では、羊はよく神の民を象徴し、山羊は悪人を象徴している（ダニエル書 8：5～8）。

羊飼いたちは、山羊と羊の性質をうまく利用して、羊の群れにリーダーとして山羊を混ぜ、人間が山羊をコントロールすることで、群れ全体のコントロールを容易にするという飼育をしている。昼間は羊も山羊も同じように過ごしているのである。

羊飼いたちは、羊を放牧する際、山羊も一緒に放牧し、夕方になると、羊と山羊を分けて、小屋に入れ休ませるのである。

しかし、羊と山羊の違いが明らかにされるのは、イエス・キリストの再臨の時であることを忘れてはいけない。

→マタイによる福音書 25：31～40

人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』